



Corporate Profile

Sensing & Communication

測る技術と伝える技術

明星電気は、安全・安心な社会と、持続可能な未来のために、
私たちの持つ独自の技術で貢献していきます。

企業理念と私たちのビジョン

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により、
革新的な商品・サービスを創造し、安全・安心な社会の発展に貢献していきます。

世界の人々のより豊かな生活の実現をめざし、
生活環境、地球環境、宇宙環境の監視、保全、活用に貢献する
グローバルな企業となります。

明星電気の有する独自のものづくり力と IHI グループの広範囲にわたる事業とを結び付け、
世界トップレベルの商品・サービスを創出します。

明星電気社員は、誇りを持ち互いに尊敬しあえるプロフェッショナルとして社会への貢献、
夢の実現に向けて常に挑戦しつづけます。

日本の気象観測と宇宙開発の歴史を支え続ける、明星電気のコアテクノロジー。

1938

明星電気 設立

東京市蒲田区(現:東京
都大田区)下丸子に
資本金30万円で設立。

中央気象台に ラジオゾンデを納入

デジタル方式の「CMO-S48B型符号
式ラジオゾンデ」を開発。中央気象台
へ納入するとともに「ゾンデの明星」
と呼ばれる時代を築きました。



ペビーTロケット ©JAXA

日本初ロケット搭載機器

日本初のロケット搭載電子
装置としてテレメータ送信
装置を開発。我が国初のロ
ケット搭載機器のメーカー
となりました。



南極観測第11次越冬隊に参加

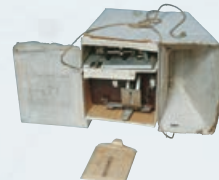
南極でのロケット/バルーンによる
オーロラ観測を中心に活躍。1985
年の南極でのロケット実験終了ま
での16年間にわたり、すべてのオー
ロラ実験に参加し続けました。



1939

明星電気初の ラジオゾンデ開発

ラジオゾンデ1,000個を
受注。測雲ゾンデ、測風
ゾンデ、三式温湿ゾンデ
の製作を行いました。



1948

1952

中央気象台に 気象ロボットを納入

測候所での雨量観測から、無線
技術を利用した無人観測を実現。
平地とは大きく異なる山岳地域の
雨量観測が可能となりました。

1955

1964

ロケットゾンデの開発

超高層気象観測(高度60km
~地上)を行うロケットゾンデ
を開発。2001年3月の観測終
了までの間に1,119機の打ち
上げを行いました。

1969

1974

気象庁にアメダスを納入

わかりやすいネーミングでも話
題を呼んだ「アメダス」。雨量、風
向、風速、温度、日照を無人で
観測するステーションを開発し、
全国に展開しました。

超長基線電波干渉計 受信装置「VLBI」

電波望遠鏡で天体の電波源を
観測し超広域測量する「VLBI」
の開発に貢献。地震予知の分
野等に大きく役立っています。



1982

1983

NASAスペースシャトル搭載機器納入

スペースシャトルを使用した日本初の人工オーロラ実験
(SEPAC)向けに、宇宙環境計測に必要なフォトメータ、
ラングミュアプローブ、フローティングプローブ波動観
測装置、電離真空計、MPD(マグネット・プラスマ・ダイナ
ミックス)、中性ガスブルーム制御装置を搭載しました。

気象庁に計測震度計を納入

世界初の震度計測装置を実現。震度計測は体感
による観測から大きな進歩を遂げました。また、
通信回線で素早い情報収集を行うとともに、テレ
ビ等でも地震直後に震度情報が流れる等、地震
災害の初動体制の確立に貢献しています。



1991

1994

気象庁に津波地震観測装置を納入

日本海中部地震等の津波災害の教訓から、
全国182個所に当社の津波地震観測装置
が整備されました。24時間常時全国の地
震を監視でき、地震後、約3分での津波予
報が可能になりました。

新空港気象システム「AMOS」

全国の空港に配備されるAMOS
(Airport Meteorological Observing
System)は、空港内の気象状態を
監視し、その情報を航空局、航空
会社に提供しています。



明星電気のコア・テクノロジー

「測る技術」と「伝える技術」は、さまざまな環境や分野で、その価値を発揮しています。

創業以来80年以上にわたり、日本の気象観測・地震観測の中核になってきた、明星電気の高い技術力と独自性。私たちはコア・テクノロジーである「測る技術」と「伝える技術」を軸に、気象防災や環境計測において、革新的な製品やシステムを創出し、地球規模の環境保全、自然災害による被害の軽減に貢献してきました。また宇宙分野では国家的な開発プロジェクトに参加し、より高度な宇宙利用への可能性をますます拡げてきました。明星電気は世界を牽引する総合環境観測システムメーカーのひとつとして、これからも持続可能な未来のために、私たちの持つ技術開発力をさまざまな環境や分野で発揮し、安全・安心な社会の実現と科学・技術の発展に貢献してまいります。

測る Sensing

現象を捉え、数値化する
「センシング技術」

- 距離を測る
- 量を測る
- 揺れを測る
- 温度・湿度を測る
- 波長を測る
- 宇宙の環境を測る

レーダー技術

光技術

放射線計測技術

物理計測技術

伝える Communication

電送・情報収集・処理により役立つ情報として伝える
「コミュニケーション技術」

- 情報を組み合わせる
- 情報を抽出する
- 画像・映像化する
- 物質を解析する
- 情報を受け渡す

情報通信

通報

表示

処理

伝送

収集

気象

防災

水管理

航空管制

宇宙

明星電気は、これからも「その先」を捉え、挑戦し続けます。

自動放球システムARS

飛揚前点検、気球へのガス充填等の準備作業から放球、さらに電波受信・解析、観測データ処理まで一連の作業を自動化、効率の良い観測を実現しました。

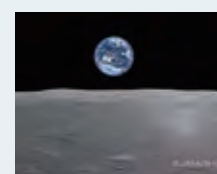
2006



ARS (写真提供：気象庁)

月周回衛星「かぐや」への技術貢献

「かぐや」の15種類の観測ミッションのうち8種類を明星電気が担当。2008年には明星電気が担当したハイビジョンカメラが「満地球の出」の撮影に成功しました。



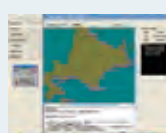
©JAXA/NHK

2008

JL表示処理装置

全国瞬時警報システム「J-ALERT」に対応したJL表示装置を販売開始。受信したJ-ALERTデータを地図で図面表示することで防災情報を見やすく表示します。

2009



2010

「はやぶさ」帰還

約7年間、約60億kmの長い旅を終え、6月に地球へ無事帰還しました。「はやぶさ」には明星電気の担当した蛍光X線分光装置(XRS)が搭載されており、小惑星「イトカワ」の表面物質の主要元素の組成のデータ収集を行い、地球に送信しました。

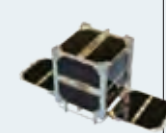


©JAXA

東日本大震災で復旧に貢献

仙台空港の管制塔が使用不能となり、国土交通省航空局へ納入した非常用管制塔システム(EVA-05)が羽田空港から仙台空港に移動・活用され、空港の管制機能の早期復旧に貢献しました。

2011



超小型衛星「WE WISH」

超小型衛星「WE WISH」は国際宇宙ステーションから宇宙に放出され、順調に地球を周回し、当初の計画を上回る158日の間運用されました。



2012

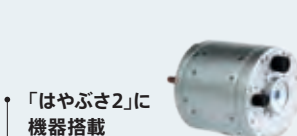
「はやぶさ2」に機器搭載

2020年に地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ2」には、近赤外分光計と分離カメラ(デジタル系)、宇宙用QCM※1の3機器が搭載されました。

2014

世界最小・最軽量のiMS-100販売開始

従来のラジオゾンデに比べ、小型軽量化し、安全性、運用コスト、環境負荷を大幅に改善。新センサの採用により、観測精度も画期的に高まりました。



2014

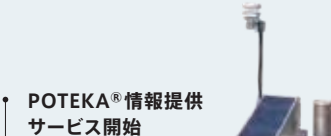
POTEKA® 情報提供サービス開始

気象庁検定を取得したPOTEKA®が情報提供サービスを開始。地域の気象災害の対策をはじめ、さまざまな気象情報の活用が期待されます。

2015

イブシロンロケット2号機 ジオスペース探査衛星「あらせ」打ち上げ

イブシロンには電力シーケンス分配器、ホットガスバルブモータコントローラ、ロケット搭載カメラ・画像圧縮伝送装置を搭載。「あらせ」には7機器の観測装置を搭載。地球を取り巻く放射線帯の謎に迫ります。

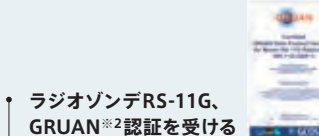


2016

ラジオゾンデRS-11G、GRUAN※2認証を受ける

GRUAN年次総会ICM-11で、当社製GPSラジオゾンデRS-11Gおよびそのデータ処理(GRUAN Data Product)に対する認証書(世界で2例目)が交付されました。

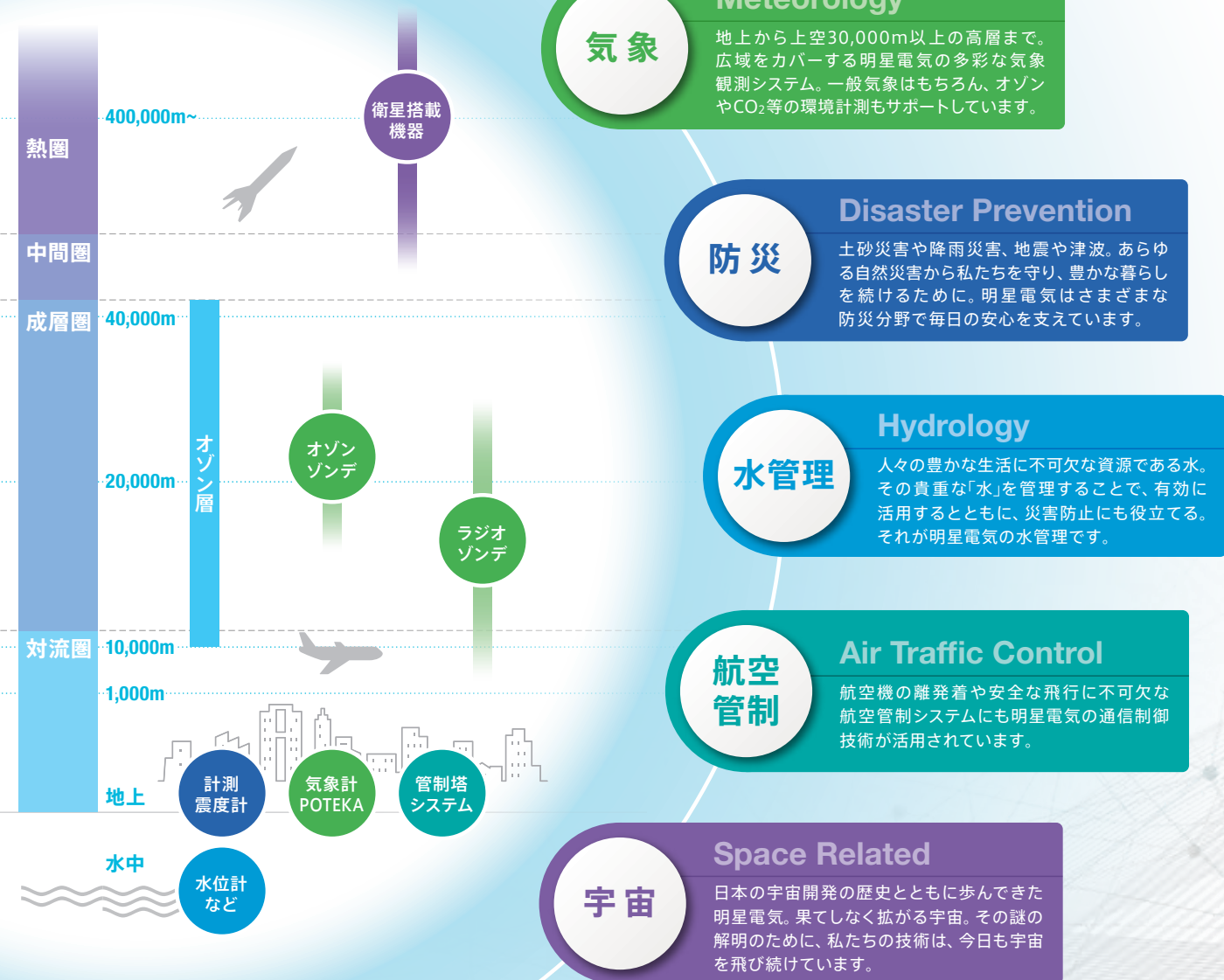
2019



拡がり続ける事業領域

明星電気の独創的な製品とシステムの数々は、幅広い事業領域にわたり、多彩な環境観測のフィールドをカバーしています。

Environmental Observation



気象

Meteorology

アメダスをはじめ、さまざまな分野で活躍する明星電気の気象観測システム。高層から地上まで、お客さまのニーズに合わせてカスタマイズした最適なシステムをご提案します。



ラジオゾンデと受信装置

ラジオゾンデ

明星電気の歴史はラジオゾンデから始まりました。小型軽量な計測器で直接さまざまな要素を観測する「センシング技術」、何百キロも離れて伝送する「テレメーター技術」は、宇宙機器や無人気象観測装置等にも活かされています。明星電気は国内唯一のラジオゾンデメーカーとして、開発・製造を行っています。



ARS (写真提供: 気象庁)

ラジオゾンデ自動放球システム ARS

「ARS」とはAutomated Radiosonde Systemのことで、最大40個のラジオゾンデを装填でき、スケジュールに従って放球前点検から放球、観測まで無人で行うシステムです。



アメダス観測局 (写真提供: 気象庁)

地域気象観測システム アメダス

アメダス (AmeDAS) は、無人で気象を観測し、電話回線で自動的に観測データを送るシステムです。1974年に開始され、全国の約1,300地点で、雨量、風向、風速、気温、日照時間、積雪深等を観測しています。観測により得られたデータは気象災害の防止・軽減のために広く利用されています。



超高密度気象観測・情報提供サービス「POTEKA®」

小型気象計とそれらを結ぶネットワークで構成される気象観測システム「POTEKA®」。気象を把握したいエリアに気象計をきめ細かく設置すれば、正確な気象情報をピンポイントで手に入れることが可能です。観測情報は、Webブラウザやスマホアプリでいつでも確認することができます。

防災

Disaster Prevention

明星電気は気象観測のパイオニアとして培ってきたノウハウと確かな計測技術、データ処理、通信システムを融合することで、精度の高い防災システムを提供しています。



処理部

センサ

計測震度計

計測震度計は、±3,000gal (オプション±4,000gal)まで計測できる3軸加速度計を使用した地震動観測機器です。揺れの加速度と周期から「震度」を算出し、算出された震度を装置前面の液晶画面に表示すると同時にIP通信等で情報発信することができます。気象庁、自治体、民間に広く利用されています。



受信装置

受信ユニット

緊急地震速報対応 QCAST®シリーズ

気象庁が配信する「緊急地震速報」を受信し、強い揺れが来る前に、情報を伝え注意を促したり、制御信号を発して工場などの設備を自動制御することが可能なシステムです。明星電気の「揺れる前に知る」技術が的確な防災行動の実現に大きく貢献しています。



制御用地震計

地震による被害の軽減を図るため、制御対象機器の近くで地震を測定し、迅速な制御を行うことを目的としています。加速度計を機器ユニット内に実装した構造となっており、機器単体で地震観測から制御信号出力まで行うことができます。



雨量観測局

監視局

山崩れ発生予知施設

遠隔地である山岳渓流地域の降雨状況を無線テレメータによって集中監視し、その結果を解析することで、山崩れの緊急情報を防災情報web等を通じて地域住民にいち早くお知らせするシステムです。土砂災害による被害の軽減に貢献しています。

水管理

Hydrology

貴重な水資源を有効に活用し、さらに災害防止にも貢献するために。明星電気の水管理は山間部を流れる河川の上流域から下流の河川流域までをトータルにカバーしています。



群馬県 四万川ダム

ダム・河川管理

雨量や水位の観測から、ダム本体や施設の保全を目的とする堤体観測、稼働状況を把握し、さまざまな諸量処理を行う管理用制御処理、地域住民に危険を知らせる放流警報や防災警報監視など。明星電気のダム・河川管理システムは気象観測・水位観測などの処理技術をベースに、様々なシステムを組み合わせ総合的なシステム構築と運営を行っています。



センサ

水晶式水位計

明星電気の長年にわたる水晶応用技術の研究から生み出された水位測定装置です。水位計のなかでも、最も精度の高い水位計のひとつといえます。新たに耐雷性に優れた光給電型水晶式水位計も加わり、ダム水位計や河川水位計、ダム漏水計、潮位計、サージタンク水位計など幅広い分野で利用されています。



水門遠隔監視制御システム

津波・高潮発生時における海岸災害を防ぐため、水門・樋門(ひもん)・陸閘(りくこう)等ゲート設備の遠隔監視制御/自動制御を行うシステムです。J-ALERT/地震計/緊急地震速報等の計測技術・データ処理技術を利用し、ゲート設備を迅速に閉鎖することが可能。河川や海岸施設の運用管理、災害対策に貢献します。

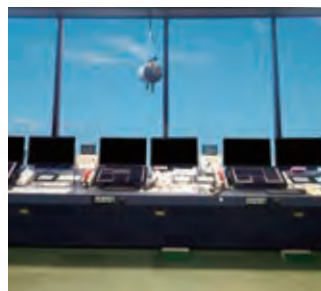


千葉県 白旗水門

航空管制

Air Traffic Control

航空機が安全に飛行するために必要不可欠な通信制御装置をはじめ、明星電気の積み重ねてきた独自の技術が、空の安全に貢献しています。



航空管制用コンソール

航空管制システム

空の安全をつかさどる、航空管制システム。その中枢を担うのが明星電気が提供する通信制御装置です。航空機とのコミュニケーションに必要な音声交換技術は、明星電気の長年の実績により蓄積されたもの。航空機の安全な運航をサポートしています。



リフターを使用した管制塔システム

簡易型航空管制コンソール

空港に着陸する飛行機や、関係各所と通信するための管制卓と呼ばれる通信制御装置の機能を簡略化して、機動性を高めた製品です。管制卓換装工事期間中の代替運用機材として、また災害や障害で管制卓の機能が失われた際の緊急用代替機材としても使用することができます。



非常用管制塔システム

常設の航空管制システムが不測の事態に陥ったときに代替手段として使用するものです。空輸、陸送での運搬ができる移動型で非常時に備えた発動発電機能を備えています。東京国際空港等に納入しています。

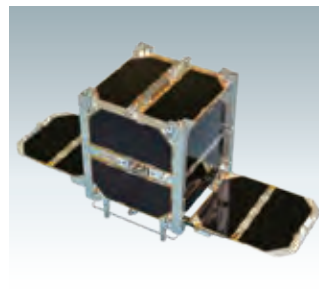
空港気象表示装置

気象庁から出力されるリアルタイムデータや気象関連データ等を気象情報受信装置を介して、受信表示・データ格納・印字等を行うことができる装置です。印字部はオプションですが、汎用品の接続が可能なので、既設品等を有効に利用することができます。

宇宙

Space Related

日本初の宇宙ステーション搭載観測機器メーカーのひとつとして、明星電気は国内外の宇宙開発プロジェクトを多数サポートしています。



超小型衛星「WE WISH」

2012年10月に当社初の超小型衛星「WE WISH」が、国際宇宙ステーションから星出宇宙飛行士のロボットアームの操作により宇宙に放出されました。158日間地球を周回し、小型衛星取得データの利用促進や地域技術教育等に貢献しました。



NIRS3

DCAM3
©JAXA

小惑星探査機「はやぶさ2」搭載機器

「はやぶさ2」に搭載された近赤外分光計(NIRS3)は、小惑星リュウグウに水の成分を含んだ鉱物があることを解明しました。理学観測分離カメラ(DCAM3)は、衝突実験の状況を高解像度で撮影しました。「はやぶさ2」のミッションは、太陽系の成り立ちや生命の起源の解明に貢献しています。



©JAXA/NASA

JEM自律移動型船内カメラ(Int-Ball)

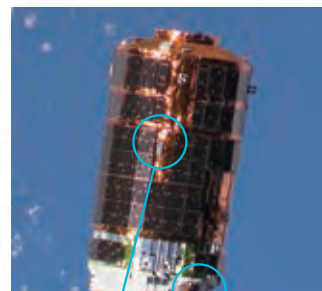
宇宙飛行士が国際宇宙ステーション日本実験棟(JEM)「きぼう」内で作業するときの手持ちカメラの準備、撮影等にかかる作業時間を軽減し効率的に行うために開発されたカメラです。JAXA筑波宇宙センターからの遠隔操作により、自律的に移動して静止画と動画の撮影ができます。



©JAXA

イプシロンロケット搭載機器

イプシロンロケットには、明星電気のロケット搭載カメラや姿勢制御に用いられるホットガスバルブ(HGV)モーターコントローラ、電力シーケンス分配器(PSDB)が搭載されています。



©JAXA



①

②

無線LAN伝送軌道上実証(WLD)

自動ドッキング技術獲得に向け、宇宙機の状況を国際宇宙ステーション(ISS)にいる宇宙飛行士が把握するため、宇宙ステーション補給機「こうのとり」(HTV)に搭載したカメラでISSを動画で撮影。世界で初めて無線LAN(WLAN)を用いて、ISSへリアルタイム伝送しました。

次世代ハイビジョンカメラで撮影された「こうのとり」9号機とULC hole mission assy
(①) PM surface mission assy(②)

宇宙分野で蓄積された技術を応用して、さまざまな観測機器の開発や、宇宙空間における耐震性・耐環境性などを評価する試験受託サービスを行っています。

宇宙技術の地上転用



普及型特性X線カメラ

セシウムによる放射線強度を短時間で可視化できる小型・軽量・ポータブルなカメラです。除染作業における活用が期待されています。

試験業務受託サービス



小型スペースチャンバ

小型スペースチャンバは、小型人工衛星やその搭載機器が宇宙空間でさらされる環境(高真空、冷暗黒)を地上で模擬し、耐環境性や熱設計、性能等の評価を行うことができる設備です。

独自の技術と高い品質を支える 確かな理由が、ここにあります。

新たな可能性を探りながら、取り組む研究開発。徹底した品質管理で優れた品質をお約束する設計生産体制。そして、お客さまと最も近い場所で製品をお届けする販売・サービス・メンテナンスのネットワーク。すべてに一貫して取り組むことで培った独自のものづくり力と、IHIグループの広範囲にわたる事業を結びつけ明星電気はこれからも世界トップレベルの製品・サービスをお届けしてまいります。



研究開発

研究開発

サービス

設計生産

設計生産

ニーズに素早く、的確に応えるために、
フレキシブルで効率的な
研究開発体制を貫いています。

幅広い要素技術と製品分野を持つ明星電気は、各分野を横断するプロジェクトチーム制を活用。フレキシブルで効率的な研究開発体制を作り、実際にお客さまに接することでマーケットニーズを意識した製品開発を実現しています。

高品質な製品・サービスを提供するために
優れた設計・生産・工事・保守体制を
確立しています。

明星電気は、宇宙搭載機器や気象関連機器で培った信頼性の高い設計技術・製造技術を全分野に応用。設計・生産・工事・保守のすべての段階で、創意と工夫をもってお客さまに満足していただくものづくりを目指しています。



日本全国を網羅するネットワーク体制でバックアップいたします。

東京事業所を中心に販売拠点となる支店・営業所を全国に配置。製造拠点である本社との連携を取りながら、お客さまの要望にお応えできる営業・サービス体制を整えております。

私たちは製品企画から、研究開発、製造、工事、保守まですべてに一貫した体制をお約束しています

製品企画

研究開発

製造

工事

保守

ISOマネジメントシステム規格を取得しています

明星電気は、国際標準化機構 (ISO) が定める『品質マネジメントシステム』ISO9001と『環境マネジメントシステム』ISO14001の認証を取得しています。

- 1938年 東京市蒲田区 (現:東京都大田区) 下丸子に資本金30万円で合名会社東洋無線電機製作所を設立
- 1939年 社名を明星電気株式会社と改称
ラジオソンの製造販売開始
- 1945年 空襲により工場を焼失、群馬県伊勢崎市に本社・工場を移転
- 1946年 東京都大森区 (現:大田区) 南馬込に本社を移転
- 1948年 中央気象台に符号式ラジオゾンデ受信機を納入
- 1952年 中央気象台にロボット気象計を納入
- 1953年 日本電信電話公社の共電式交換機の指定メーカーとなる
- 1955年 東京大学生産技術研究所にロケットテレメータを納入
- 1956年 スイスパイルンで行われた国際ゾンデ比較試験で最優秀の成績をおさめる
- 1957年 東京都中央区銀座に本社を移転
- 1962年 株式を東京証券取引所市場第二部に上場
- 1964年 茨城県守谷町 (現:守谷市) に守谷工場を建設
IGY (国際地球観測年) に参加
- 1965年 日本電信電話公社にボタン電話装置を納入
- 1966年 東京大学航空宇宙研究所に人工衛星追跡装置を納入
日本電信電話公社にRC形自動式構内交換機を納入
- 1967年 東京都文京区小石川に本社を移転
- 1968年 群馬県伊勢崎市に伊勢崎新工場を建設
- 1969年 南極観測第11次越冬隊に参加
気象庁に船舶用エコゾンデ観測装置を納入
- 1970年 日本初の人工衛星「おおすみ」にアンテナ／方向性結合器搭載
- 1973年 気象庁に沿岸防災用テレメータ装置を納入
日本電信電話公社にホームテレホンを納入
- 1974年 気象庁に軌道気象衛星受信装置を納入
気象庁に地域気象観測システム (アメダス) を納入
日本電信電話公社にプッシュ式ボタン電話機を納入
- 1976年 気象庁に有線ロボット気象計を納入
- 1978年 千葉県に海象気象自動観測装置を納入
- 1981年 国際協力事業団に地震テレメータを納入
- 1982年 国土地理院に超長基線電波干渉計受信装置 (VLBI) を納入
- 1983年 日本電信電話公社にEP-10形電子交換機を納入
- 1985年 NTT (旧日本電信電話公社) にビジネスホンスーパー Eシリーズを納入
- 1986年 伊豆大島に地震テレメータを設置
- 1987年 トルコ共和国に航空気象観測装置システムを納入
- 1988年 羽田空港に地震観測装置を納入
- 1990年 沖縄県那覇市水道局に水道管理システムを納入
- 1991年 気象庁、NHKに計測震度計を納入、アメダス全国展開を開始
- 1992年 ISY (国際宇宙観測年) に参加
- 1994年 気象庁に津波地震観測装置を納入
ISO9001の認証を取得
- 1995年 気象庁にJMA-95型地上気象観測装置を納入
アステルグループにPHS公衆基地局を納入
- 1996年 震度7対応の計測震度計を納入
- 1999年 気象庁に量的津波処理システムを納入

- 2000年 気象庁に新空港気象観測システム (AMOS) を納入
- 2001年 ISO14001の認証を取得
- 2002年 民生部品・コンポーネント実証衛星「つばさ (MDS-1)」に宇宙環境計測装置を搭載
小型実証衛星「マイクロラブサット1号機」に技術データ取得装置を搭載
- 2003年 気象庁にナウキャスト機能付き地震観測装置を納入
- 2004年 地震情報防災システムを発売
- 2005年 守谷工場を伊勢崎工場に統合、ISO9001の認証も統合化
- 2006年 気象庁にラジオゾンデ自動放球システム (ARS) を納入
- 2007年 月周回衛星「かくや」にハイビジョンカメラを含む8機器を搭載
- 2009年 国際宇宙ステーションに「宇宙環境計測装置」と「全天X線観測装置」を搭載
- 2010年 「はやぶさ」帰還: 搭載した蛍光X線分光装置が活躍
- 2012年 東日本大震災の復興に、静止気象衛星システム通報局 (DCP) 424ヶ所気象庁に納入
米国サウスウエスト・リサーチ・インストチュート社 (SwRI) との技術提携
株式会社IHIと資本・業務提携 IHIグループの一員へ
超小型衛星「WE WISH」の放出・成功 (2013年大気圏突入)
- 2013年 地域稠密観測「伊勢崎市POTEKAプロジェクト」立ち上げ
群馬県伊勢崎市に本社を移転
東京都江東区豊洲 (豊洲IHIビル) に東京事業所を移転
- 2014年 世界最小・最軽量のラジオゾンデiMS-100販売開始
小惑星探査機「はやぶさ2」に近赤外分光計と分離カメラ搭載
- 2015年 POTEKA気象情報サービス開始
- 2016年 ジオスペース探査衛星「あらせ」に7機器の観測装置を搭載
- 2019年 ラジオゾンデRS-11GがGRUAN (気候変動を監視するための高層観測網の設置推進を図る国際機関) から認証を受ける
「はやぶさ2」搭載の近赤外分光計がリュウグウの含水鉱物を発見・分離カメラによる衝突実験の撮影に成功
- 2020年 世界で初めて宇宙機間の無線LAN伝送軌道上実証 (WLD) に成功: 開発機器が貢献
- 2021年 株式会社IHIの完全子会社となる

持続可能な未来のために。 私たち、明星電気が取り組むべきこと。

明星電気の企業理念である「私たちは、独自のSensing & Communication技術により、革新的な商品・サービスを創造し、安全・安心な社会の発展に貢献していきます。」と、SDGsが目指すものは親和性が高く、当社の事業活動を通じてSDGsの達成に貢献できる部分は大きいものと考えています。近年、自然災害は増加傾向にあり、被害も激甚化するなかで、当社のラジオゾンデ・POTEKA®に代表される気象観測システムや計測震度計・QCAST®に代表される防災システムは、自然災害の防止や軽減に活用することができます。また、宇宙防衛事業に属する衛星搭載機器などは、地球観測衛星による地球規模の現象の捕捉や、自然災害発生時の状況把握と早期対応などに役立っています。持続可能な未来のために、私たち明星電気が貢献できることは多岐にわたっています。



※ SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」。「地球上の誰一人として取り残さない」(Leave No One Behind)という理念のもと、「世界の貧困をなくす」「持続可能な世界を実現する」ことを目指した、2030年を達成期限とする17のゴール・169のターゲット、およびその進展を評価するための指針を持つ包括的な目標です。

地方創生SDGs
官民連携
プラットフォーム

明星電気は地方創生SDGs官民連携プラットフォームに加盟しています。

明星電気株式会社 www.meisei.co.jp

本社 〒372-8585 群馬県伊勢崎市長沼町2223番地 TEL:0270-32-1111(代表)
東京事業所 〒135-8115 東京都江東区豊洲三丁目1番1号 豊洲IHIビル10階 TEL:03-6204-8250(代表)